

教育委員と社会教育委員との懇談会 概要

教育委員と社会教育委員との懇談会	
開催日時	令和2年3月12日(木) 午後4時～午後5時
会場	市役所白山浦庁舎 5号棟3階 教育会議室1
出席者	<p>【教育委員】 佐藤 久栄、上田 晋三、田中 賢一、渡邊 節子、山倉 茂美、小野沢 裕子、市嶋 洋介、渡邊 純子 計8名 *敬称略</p> <p>【社会教育委員】 伊比 宗宏、岡 昌子、小川 崇、角野 仁美、笹川 博人、杉山 節子、田中 一昭、田中 宏和、山田 久美子 計9名 (欠席：雲尾 周、渡邊 彩) *敬称略</p> <p>【事務局】 教育長、教育次長、教育政策室長、教育総務課長、地域教育推進課長、中央図書館長補佐、生涯学習センター所長、中央公民館職員、生涯学習センター職員3名 計12名</p>
内容	<p>1 開会あいさつ (社会教育委員会議副議長)</p> <p>2 第33期新潟市社会教育委員会議建議の提出 ○小川副議長から前田教育長に、第33期新潟市社会教育委員会議の建議が提出されました。</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 建議「社会教育による次世代育成について」の概要説明 ○小川副議長が、第33期新潟市社会教育委員会議の建議の概要について説明を行いました。</p> <p>5 建議「社会教育による次世代育成について」の提言内容について (1) 「世代を超えた学びの継承と創造」 ○「世代を超えた学びの継承と創造」の視点から笹川委員が、建議の提言内容について説明を行いました。</p> <p>(2) 「いろいろな世代の学びの充実と展開」 ○「いろいろな世代の学びの充実と展開」の視点から山田委員が、建議の提言内容について説明を行いました。</p> <p>6 建議の今後の展開について ○生涯学習センター所長と小川副議長が、それぞれ3月に策定された教育ビジョン第4期実施計画と建議との関連、建議の今後の活用について説明を行いました。</p> <p>7 意見交換 【主な質問・意見等】 ・ 「にいがた市民大学」の新潟学コース「日本酒学への招待」に参加し前期、後期講座を受講してレポート提出後、呼びかけにより、自主グループを発足した。提言のように、いろいろな世代の学びを通して横のつながりができた。若年層は社会教育に目を向ける時間が少ないが、何か興味のある学びを通し社会教育に参加する機会を増やすことで、すそ野を広げることができ、次世代育成につ</p>

教育委員と社会教育委員との懇談会 概要

<p>内 容</p>	<p>ながるのでないかと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟市では小・中学生が地域の歴史や文化などを学び、地域の人に発表していて、子どもたちだけでなく発表を見た保護者にとっても地域を知るきっかけになる。白根高校のように、学んできたことが世代を超えていくことが望ましく、区や市全体の発表につなげていくといいのではないか。</li> <li>・地域で育成協やコミュニティ協議会活動をしている。小・中学生と保護者、高齢者が主で、若者、高校生顔が見えない。事例では自発的に地域のために高校生、若者が入り活動していることで、新しい考えや行動により地域が盛り上がり、いろいろな世代の学びの充実の展開につながると感じた。</li> <li>・20代～40代は中之口の事例のように、楽しみながら自由に、若者の動機が削がれないようなバックアップの仕組みがあると、提言のように継続して世代を超えてつながるのではないか。行政の支援や、地域から認められることによる達成感など、社会教育の中で枠組みができていくといいと感じた。</li> <li>・白根高校と異なり、各所から広く生徒が来ている高校の場合は、いろいろな高校の生徒たちが一緒に活動できると、それぞれの高校で閉塞感を感じているところにも新たな出会いができ多様性が生まれ、魅力的ではないか。</li> <li>・YAKKOTE（やっこて）の事例では地域教育コーディネーターの働き、バックアップが大きく、市が取り組んできた学・社・民の融合の取組みが成果を挙げていることに触れている。新潟市の小・中学校では、地域の文化や歴史、芸能などを学ぶ機会も多く、アンケートなどを見ると地域活動にかかわりたいという子どもがとて多と思う。</li> <li>・市教育委員会として地域教育コーディネーターを全校配置し、地域の大人たちと活動していることが、建議の中の旧来型次世代育成と、これから求められている新しい形の次世代育成とを組み合わせる形の活動になるのではないか。大人になり地域のために貢献したいと地域に戻り活動することは理想であるが、大人になり市外に住んだ場合でも、その地域でリーダーシップを発揮して素晴らしい地域貢献活動をするなど、新潟市で育ち、地域のために貢献したいと思ったと発信してもらえるといい。</li> <li>・令和4年度から全市展開される「コミュニティスクール（CS）」がこれからの鍵になると思う。「地域と学校パートナーシップ事業」など、地域に支えられて学校がある。平成27年12月21日に出た中教審の答申の中に、これからの地域創生に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と方策として、学校だけで解決はできない課題に地域や保護者と一緒になって取り組み、子どもを核にして学校で学びの拠点をつくとあり、目指すCSの方向であると思う。次世代である保護者の世代の参画・協力が一人でも増えるとありがたい。</li> </ul> <p>8 閉会あいさつ（教育長）</p>
<p>会議資料等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員と社会教育委員との懇談会 次第</li> <li>・資料番号なし 教育委員と社会教育委員との懇談会 出席者名簿</li> <li>・資料番号なし 概要第33期社会教育委員会議建議『社会教育による次世代育成について』</li> <li>・資料番号なし 建議「社会教育による次世代育成について」</li> </ul>